

02 「東洋ベアリング製造」として新たな躍進

社名改称、本社移転、株式公開

戦時体制の進行により、当社は軍部からの生産増強の要請に応えるため、工場・設備の大拡張が必要となった。この資金調達のためには大幅増資が必須である。そこで株式公開を前提に新株公開で実績のある山一證券と協議を重ねた結果、まず会社を広く世間に認識させるためにも、新たな社名に変更することが効果的であるとの結論に達した。そこで1937(昭和12)年1月を期して商号を変更。社名を東洋ベアリング製造株式会社に改めた。同時期、株式会社エヌチーエヌ名古屋営業所(資本金25万円・名古屋市中区下前津町、現 中区富士見町)を吸収合併、資本総額を325万円とした。同年3月、役員重任により、丹羽昇、水木善四郎、西園二郎、森富吉、長谷川貫一、佐田保一郎の布陣となった。また、これを機に5月、本社を大阪市南区末吉橋通4丁目(現 中央区南船場4丁目)の新橋ビルに移転した。大阪のメインストリート御堂筋の心斎橋に近い一等地である(ただし、登記上の



定価表(1937年版)



新聞広告(1937)

本社所在地は戦後まで北区堂島浜通のままである。9月には資本金を一気に1000万円に増資、株式の公開を行った。その時の株主は5万7955株を持つ丹羽を筆頭に1268人。1000株以上の大株主は(表2-3)のとおり、大手保険会社・信託会社に加え財界人なども名を連ねている。ちなみに岸本五兵衛は汽船会社経営や箕面住宅地開発で知られる実業家、殿村平右衛門は代々金融業を営む大阪の素封家である。大沢徳太郎は大沢商会の経営者であり京都商業会議所会頭、貴族院議員を歴任。辰馬悦蔵は神戸・灘の銘酒「白鷹」の蔵元である。

当時はベアリングに対する一般世間の認識は極めて低く、株主を募集する際、事業内容の説明にはずいぶん苦労したといわれている。そこで会社の信用を高



東洋ベアリング製造本社が移転した大阪市南区末吉橋通4丁目の新橋ビル(1937年ごろ)

表 2-3 1937 年の大株主一覧

株数	株主
57955	丹羽昇(当社社長)
9250	鴻池信託株式会社 (後に三和信託と合併し 現 三菱UFJ信託銀行株式会社)
5000	日本生命保険相互会社
5000	共同信託株式会社 (後に三和信託と合併し 現 三菱UFJ信託銀行株式会社)
3000	住友生命保険相互会社
2800	木下茂(山一證券大阪支店長常務取締役)
2500	大同生命保険株式会社 (戦後相互会社となり、現在は株式会社)
2100	宇佐見秀太郎
2000	豊国火災保険株式会社 (現 日新火災海上保険株式会社)
2000	福德生命保険相互会社 (戦後第百生命となり 現 マニユライフ生命保険株式会社)
2000	寺田基吉(南海電鉄社長)
2000	岸本五兵衛(2代目)(岸本汽船社長)
1660	殿村平右衛門(三十四銀行、摂津紡績各取締役)
1500	早瀬太郎三郎(大阪財界有力者)
1400	西園二郎(当社取締役)
1350	丹羽一雄
1300	株式会社池田実業銀行 (現 株式会社池田泉州銀行)
1300	岸本正清
1250	池田商事株式会社
1250	水木善四郎(当社専務)
1200	竹尾幸次郎
1125	池田保(池田商事取締役)
1050	森富吉(当社取締役)
1000	関西信託株式会社 (現 三菱UFJ信託銀行株式会社)
1000	株式会社松江銀行 (現 株式会社山陰合同銀行)
1000	大沢徳太郎(実業家、大沢商会創業者大沢善助の長男)
1000	辰馬悦蔵(辰馬悦蔵商店社長)

1937年9月現在

め経営の基礎を強化するため、当時関西財界の有力者であった寺田基吉(南海電鉄社長)、早瀬太郎三郎(大阪財界有力者)、岸本五兵衛(大阪財界有力者)、大森吉五郎(元 京都市長)を役員として迎え入れ、山一證券大阪支店長常務取締役の木下茂を社外重役に起用した。

東洋ベアリングとなって初の1937(昭和12)年2月～8月上半期(第4期)決算は総益金146万4974円、総損金100万4158円、差引当期利益金は46万816円。翌年2月に至る下半期(第5期)は総益金302万3214円、総損金は206万3907円、償却金を差し引



大阪市西区京町堀通1丁目に移転した東洋ベアリング製造本社(1941)

沿革編

Column

増資が縁で社名を変更

1934(昭和9)年初頭、丹羽社長は山一證券大阪支店を訪れ、増資の協力を願い出た。応じた支店長の木下茂専務は単刀直入な丹羽の話を気に入り、桑名工場訪問後、当時日本はベアリングをSKFから買うしかなかったという状況を知り増資にこたえる肚を決めた。

新株を売り出すと、申し込みは30倍にも達して、プレミアムが100円もつく大成功となり、300万円の資本金は1000万円になった。このとき、木下の勧めで会社が大きくなるように社名が東洋ベアリング製造に変わった。

その後、1937(昭和12)年に木下は丹羽にさらなる増資を提案した。工場ができるまで無配になることを丹羽が嫌ったので、子会社を作り、工場ができてから合併することとした。その結果、資本金1500万円で昭和ベアリング製造を設立。

新株の売り出しには「世界記録を作った神風号は、東洋ベアリングの製品を使用しています」というコピーを使った。今回も株券に申し込みが殺到し、工場も竣工。設立から1年余りで東洋ベアリング製造と合併した。

木下はこれらの付き合いを契機に、1947(昭和22)年から1956年にかけて当社の会長を務めることとなった。

出典：有竹修二、眞井義共 共編「財人秘話」(河出書房、1955)